今年度も引き続き、校長室から日頃の「雑感」をお届けいたします。昨年度は例年以上に数多くの生徒の皆さんが校長室に足を運んでくれ、大会報告や各種イベント案内など、様々なお話を聞かせてくれました。教育活動はもちろん、そうした生徒の皆さんとの談話等も交えながら綴ってまいりますので、ご笑覧いただけましたら幸いです。

One for all, All for one.　No.110

R6.12. 2　「部活生対象の進路ガイダンス」

モンテカルロ商事さんのご協力により「体育系部活生の為になる講座」を放課後に開催しました。この取組は、運動部に所属する生徒がより効率的に練習に取り組めるための方策を学んだり、スポーツの経験を通して進路を考えるきっかけ作りなどにしてもらうことを目的に行っています。

特に本校は体育系部活動への加入率が高く、スポーツを通して体得した豊かな社会性を将来にも生かしたいと考えている生徒が多く在籍します。

大学や専門学校から各分野専門の講師の皆様に来校していただき、「体育教師の仕事を知る」「理学療法士の仕事を知る」「スポーツメディカル」「運動パフォーマンス」等のテーマを設け、生徒が自分の興味・関心に合わせて参加しました。

新たな発見が、今後の部活動の取組や進路設定の一助になるものと確信しています。

One for all, All for one.　No.111

R6.12. 3　「全道学校書道展」

先頃、札幌で表彰式が行われた「全道学校書道展」で、３年生 阿久津 妃依さんの作品が最高賞となる「推薦」に輝きました。阿久津さんはこれまでも数々のコンクールで入賞を果たしていますが、３年間の集大成として手にしたビッグタイトルに喜びも一入だったことでしょう。

半紙に書かれた灌頂記（空海）の臨書は、実にダイナミック。大字と小字のバランス、気負いのない自然な筆の運び、一貫した気脈と、半紙に表現したとは思えないほど見る人を圧倒する作品に仕上がっています。

「高校に入って初めて本格的な書に触れ、先輩たちの筆づかいや書体に憧れる中、いつしか自分ものめり込むようになりました。努力すれば少しずつ上達する喜びも味わいましたし、地域貢献の一環としてのパフォーマンスには大きな達成感もありました。書道部の仲間との語らいも最高の思い出です」と爽やかに話してくれました。

One for all, All for one.　№112

R6.12. 4　「成道会」

お釈迦様が悟りを開かれたことをお祝いする「成道会」の法要を執り行いました。

ご法話では、宗教教育部の藤平竜多先生がお釈迦様の説かれた「縁起」について「人の縁はすべて単なる偶然ではなく深い因縁によって生じるものです。いかなる出会いも大切にしていかなければなりません」とお話されました。

「縁起」という言葉は、一般的には縁起が良いとか悪いとか、幸不幸の前兆的な意味や、寺社仏閣や仏像などの由来や沿革を指す言葉として用いられます。しかし今日のご法話にもありましたように、本来の意味は仏教の重要な教説を指す言葉です。

「苦しみには原因があり、その原因を消滅させる事で苦しみが消えるという、生きる上で生じる『苦』の原因や条件を追求し解き明かしたものを『縁起』と言います。仏教では、日常で生じる『怒り』『不安』『猜疑心』など、それら全てを『苦』と表現します。その『苦』の原因には『無明』が存在します。この『無明』とは自己中心性を言い、自分の事しか見えていない、視野が狭い状態です。この状態から何か行動を起こしたり、発言したり、思考すると、巡り巡って『苦』が生じます。一方『無明』を抑え、他者への共感性や慈悲を持つことで、結果的に『苦』を滅する事ができます。この考えこそが『縁起』なのです」

出会いに喜びと感謝の気持ちを持ち、日々過ごしていくことの大切さを学びました。

One for all, All for one.　№113

R6.12. 4　「壮行会」

今月末に京都で開催される「全国高等学校駅伝競走大会」に出場する女子駅伝チームの壮行会を行いました。

全国大会への出場は今年度で 13 年連続となりますが、様々なプレッシャーをはねのけ、並外れた体力と強靭な精神力で勝ち取った栄誉に心から敬意を表します。

生徒会総務役員のインタビューに、選手の皆さんは「ベストを尽くし、1 時間 9 分台で必ず入賞を果たしてきます」「このチームの特徴は結束です。仲間を信じ都大路を走り抜きます」「沢山の声援がいつも大きな励みになっています」と、全国大会にかける意気込みを返してくれました。

北海道記録は 1 時間 10 分と聞いています。これまでの練習の成果を存分に出し切り、仲間を信じて走り切ることで、その壁

を打ち破ってくれるものと期待しています。全校生徒はもちろん、沢山の人が皆さんの走りに声援を送っていますからね！「ファイト～！！」

One for all, All for one.　No.114

R6.12.10　「大雪旭岳の源水」

長きにわたりご支援をいただいている東川町農業協同組合の皆様から、今年も生徒激励の美味しいお水を沢山頂戴いたしました。

学習や部活動の合間にいただく東川町のお水は、いつも子どもたちの元気の源になっています。代表理事組合長様はじめ東川町農業共同組合職員の皆様の温かなご支援に心より感謝申し上げます。

今年も残りわずかとなりましたが、今月 22 日には女子駅伝チームが京都での全国大会に出場してきます。皆様の熱いご支援に報いるためにも、精一杯頑張ってきてくれるものと確信していますので、引き続き応援の程よろしくお願いいたします。

One for all, All for one.　No.115

R6.12.12　「今月の生け花」

茶華道部の皆さんが､季節を代表する花々で美しく彩られた生け花を飾ってくれました。自然を愛でる美意識や季節感が見事に表現され、疲れを癒してくれるとともに新たな活力を与えてくれます。

生け花の美しさは、何といっても自然との調和でしょうか。花、葉、枝などを自然の形や姿勢に沿って配置することで、各々の美しさがより際立ちます。さらに、そこに周囲の空間が加わることで、全体としての自然美が一段と引き立ちます。

簡素な配置によりそれぞれの素材の美しさを最大限に引き出し、空間との関りから奥深い美しさを醸し出す日本の伝統美には高度な芸術性が秘められ、いつも感服させられます。

茶華道部の皆さんの腕前、本当にすごいですね！

One for all, All for one.　No.116

R6.12.15　「異世代交流事業」

インターアクト部が、旭川市と旭川ウェルビーイング・コンソーシアム学生自主組織はっしくが共催する「あったかいね、あさひかわ」のボランティア活動に参加してきました。

青少年健全育成を目的に毎年行っているイベントで、会場装飾、準備、運営などを通して地域、異世代との交流を深めました。

One for all, All for one.　№117

R6.12.18　「進路説明会」

キャリアデザインコースの１・２年生を対象に、旭川地場産センターで開催された「進路説明会」に参加してきました。多数の大学・短大・専門学校が各々にブースを設け、専門のスタッフが学部やコース内容、授業の様子、必要経費、取得可能な資格、奨学制度、受験対策などについて生徒に説明してくれました。

現代は、上級学校に進み何を学ぶのか、将来とどうリンクさせるのか、人生設計の過程においてどう位置づけるのかなど、自身で決めなければならないことが沢山あります。

その道筋を間違わないためにも、今回のガイダンスのように多くの情報が得られる機会を大切にする必要があります。

本校では、上級学校の研究内容や仕組みについて少しでも理解を深めてもらえるよう、年間を通して各種の進路ガイダンスを実施しています。

One for all, All for one.　№118

R6.12.22　「全国高校駅伝」

全国大会 13 年連続出場となる女子駅伝チームが、今年も 21 ㎞の都大路を襷でつなぎました。低い気温ながらも快晴に恵まれた「たけびしスタジアム京都」には、全国各地を代表する強豪校並びに有力選手が集いました。本校選手の皆さんも鍛錬を重ねながら、この日が来るのを待ち詫びていました。

目標としていた記録にはわずかに手が届きませんでしたが、各々が持ち区間での役割をしっかりと果たし、固い結束のもと素晴らしい走りを見せてくれました。

様々な試練を乗り越え、こうして全国大会に出場すること自体、並大抵の努力では叶わないことです。

日々の練習はもちろん、日常の学校生活、礼節、他者への気遣いなど、どれをとっても駅伝チームは模範的です。その過程の中で得たものや身に付いたものは、必ず一人一人の人生を豊かにしていくものと確信しています。

そうした人間性を日々大切にしているからこそ、自らを律し、全国でも活躍できる選手になるのだと改めて痛感しました。

この大会を最後に引退となる３年生の皆さん、本当にお疲れさまでした！苦楽を共にしてきた仲間の姿からは絆の深さがよく伝わってきます。

今後は、走ることを続ける人、走ることから新たな目標へと転換する人など様々ですが、３年間、自らの役割を全うした達成感、自信、誇りを胸に益々の活躍を期待しています。

このたびの大会に係り、保護者の皆様はじめ、多くの関係者や地域の方々から多大なるご支援を賜りました。「心より厚く御礼申し上げます。誠に有り難うございました！」

One for all, All for one.　№119

R6.12.25　「ビブラフォンで全国大会！」

２年生の橘内 紗矢香さんがビブラフォンで、「全日本学生国際ソロコンクール」全国大会出場を見事に勝ち取りました。ソロ演奏での全国大会出場は、昨年の「全日本管打楽器ソロコンテスト」に続いて２度目となります。

「ビブラフォンに出会ったのでは、中学生の時に先輩が奏でている姿に魅了されたのがきっかけです」と言います。

手にするマレットは通常２～４本ですが、時には６本のマレットを同時に持ち、さらに上下を使い分けながら演奏することもあるそうです。

「本大会では貸し出された楽器に臨機応変対応しなければなりません。昨年は気持ちが不安定なまま演奏に入りましたが、今年は冷静に落ち着いて対応したいと思います」と、２月の全国大会出場に向け抱負を語ってくれました。

吹奏楽の皆さんは一人一人の演奏技術が高いだけでなく、地域の要請にも応え、多くのボランティア活動に参加するなど、日々高い社会性と人間性を培っています。